
 新 刊 紹 介

FLETCHER, R.L.: Seaweeds of the British Isles. Volume 3 Fucophyceae (Phaeophyceae) Part 1.
 359 pp. British Museum (Natural History). London.
 (1987) £ 30.00

本書は大英博物館より1977年以降順次刊行されている英国諸島の海藻誌のシリーズの第3巻の第1部であり、褐藻類の一部を扱っている。このシリーズの刊行は、1953年の英国藻類学会の設立以来の重要な事業の1つで、同学会にはそのための“Flora Committee”が設けられている。本書の前書きによると、この事業のうち褐藻の部分については歴史的には Blackler, Parke, Russell, Fletcher 各氏が関係しており、最終的には本書の著者の Fletcher 博士が、主に担当することになった。なお本書の前半の序論の部分は Russell 博士との共著となっている。本書の体裁は第1巻の紅藻編をほぼ踏襲しており、序論、暫定的な属の検索表、分類の各論、用語解、分類群の索引などから構成されている。序論は細胞レベル、組織レベルの形態や生活史、生態等、褐藻類の分類を理解する上で必要と考えられる基礎的な知識について、簡潔にまとめられている。この部分は、比較的最近の研究の成果も含められており、また原著の出典が豊富に示されていることから、簡単ではあるが入門書としてなかなか有用である。

本書の分類の部分は含まれる種やその配列等において Parke & Dixon (1976) の英国産海藻のチェックリストに基礎をおいており、英国諸島産の褐藻として33の科をあげている。本書(第1部)では、これらのうち12の科を扱っているが、その内容は、系統上の配列に基づく選択ではなく、ある程度の傾向は見られるものの、準備の終わったものからとりまとめたというものである。すなわち、リトデルマ科、ミリオネマ科、ナミマクラ科、ネバリモ科、コブノヒゲ科、ミリオトリキア科、ハバモドキ科、カヤモノリ科、ムチモ科、アルトロクラディア科、ウルシグサ科、ケヤリモ科の12科の36属66種が含まれている。しかし一般にこれらの科と近縁とされている、シオミドロ科、ナガマツモ科、ニセモズク科、モズク科、ヨコジマノリ科、ジローディア科、ブッフハミア科、ウイキョウモ科などは含まれていない。本書がこのシリーズの他の巻、または他の海藻誌やモノグラフと最も異なっている点は、目レベルでの記載や系統関係への言及をすべて廃

して、科を取り扱う最上位の分類学的階層とした点である。その理由は著者によると、カヤモノリ目、ナガマツモ目、ウイキョウモ目、イソガワラ目、チロプテリス目、ハバモドキ目等の目を区別するのに用いられている形質は1つ、または少数にすぎず、人為的な区分であると考えられ、またこれらの目が歴史的に安定したものとして認められているわけではないというものである。確かにこの背景として比較的原始的な褐藻類の目レベルでの取り扱い、現在やや混乱した状況にあり、上で挙げた目をすべて広義のシオミドロ目に含めるという考え方が特に英国系の研究者の間に強い。また近年、Kylin の褐藻類の分類系では類縁上遠いとされてきたウルシグサ目とコンブ目、ナガマツモ目とヒバマタ目等の間で比較的近い類縁関係が論じられる等、目レベルでの再検討が必要とされているグループが多く見られることも事実である。これらの状況から、著者はあえて本書で目レベルでの取り扱いを避けたものと考えられる。しかし、そのことは、本書(第1部)に含まれる科が分類上の配列に従っていないことと相俟って、本書をかなり使いにくいものとしている。目レベルでの記載、命名についてもせめて序論の部分で触れる等の配慮がほしかった。

分類の各論では、科、属の記載、種の検索表、種の記載(分類上の異名表、形態学的な記載、生活史の知見、生態、分布、季節性、文献)などが述べられており、取り扱われたすべての種につき線画による解剖図が示され、一部のものについては線画または写真により外観が示されている。この、すべての種につき、それも可能なかぎり生殖器官を含んだ解剖図を与えている点が本書のすぐれた特色である。最近出版された多くの海藻誌は解剖図はほとんど無く記載と標本の外観の写真が示されているだけであったり、時には他の海域の標本に基づく解剖図が原記載などから引用されているなど、その海域の海藻の理解にはあまり役立つものが多い。その点で単なる文献の切り貼りではなく、フローラ研究の集成であるこの労作の持つ意義は大きい。しかし、これまでに刊行された本シリーズの他の巻ではみられた、タイプ標本の所在や標本番号についての記載がなされていないのは残念である。

この号での分類上の取り扱いで Parke & Dixon (1976) のチェックリストとの科レベルでの主な相異点は次の2点である。

1) イソガワラ属はカヤモノリ科に含める。これは最近の培養による生活史の研究で、イソガワラ類の一部が、カヤモノリ科の種の殻状世代であることが示されたことに基づいており、その他の大部分の殻状藻はイソガワラ科を廃するかわりに、リトデルマ科に含められている。

2) Pedersen (1978) の考え方に従いコブノヒゲ科を新設する。

本書のシリーズではこれまでに下にあげる三冊が既に刊行されており、引き続き紅藻のイギス目、ウシケノリ綱の部分、褐藻の第2部、緑藻、藍藻の各巻等が刊行される予定である。

*Dixon, P.S. & Irvine, L.M. *Seaweeds of the British Isles. Volume 1 Rhodophyta. Part 1*

Introduction, Nemaliales, Gigartinales. xi + 252 pp. British Museum (Natural History). London. (1977). £ 13.00

*Irvine, L.M. *Seaweeds of the British Isles. Volume 1 Rhodophyta. Part 2A Cryptonemiales (sensu stricto). Palmariales, Rhodymeniales. 120 pp. British Museum (Natural History). London. (1983). £ 13.00*

*Christensen, T. *Seaweeds of the British Isles. Volume 4. Tribophyceae. (Xanthophyceae). 36 pp. British Museum (Natural History). London (1987). £ 7.50.*

(北海道大学理学部植物分類 川井浩史)

新 刊 紹 介

SOUTH, G.R. and WHITTICK, A. *Introduction to Phycology.* vii+340 pp. Blackwell Scientific Publications, Oxford, London, etc. 1987. 邦貨 5,380円 (ペーパーバック)

本書『藻類学序説』は藻類学の全域を取り扱った生物学書であり、9章から構成されている。1章 緒言(4頁, 章の占める頁数)、2章 藻類の分類(41頁)、3章 細胞及び細胞微細構造(55頁)、4章 体制の段階(28頁)、5章 生殖と生活環(43頁)、6章 生理学及び生化学(28頁)、7章 生態学(46頁)、8章 進化と系統発生学(26頁)、9章 藻と人間及び環境(16頁)であり、引用文献(52頁)と索引(11頁)がついている。

各章の占める頁数から知られるように、各章は同じウェイトで記述され、この種の著書にあり勝ちなある項目(例えば、分類とか生態)に偏重することなく、著者の専門領域に執られることなく広い視野から書

かれている。例えば、5章では、多くの分類群について、例を挙げて、それぞれの生殖法と生活環との関係を図を多用してうまく説明している。また、9章では、この種の本には余りみられない、藻と人間生活及び水質環境(有毒藻、水域の富栄養化、汚染、利用、栽培等)を最近の例を挙げて説明している。

本書には、多くの文献が引用され、特に1970年代及び1980年代のものが紹介されているので、藻類学の最近の進歩を知ることができる。また、藻体写真と細胞の微細構造の写真を除いては、線画が採用され、表も多いので内容が理解され易い本になっている。

前述の如く、本書は入門書というよりは、最近の藻類学の進歩を知るためにも藻類研究者及び藻類に関心をもたれる方に推薦したい。また、大学の藻類学講義の一部として、さらには大学院生の教科書として採用できる良書である。(京都大学農学部 梅崎 勇)